



電車どおり

平成24年6月25日発行 第82号 函館中央病院 発行責任者 橋本友幸

日本医療機能評価機構認定施設、総合周産期母子医療センター

基本方針

- 私たちは、患者さまの権利とプライバシーを尊重した医療を提供します。
- 私たちは、チーム医療を実践し、患者さまに応じた医療を提供します。
- 私たちは、地域の医療機関との連携を強化し、医療環境の発展と充実を図ります。
- 私たちは、日々研鑽し、最高で高次の医療を提供します。
- 私たちは、一人一人が幸せで働きがいのある病院を目指します。



節電実施中です！



4 2年振りに国内の稼働原発がゼロとなり、北海道でも電力需給が厳しい状況になることが予想されています。北海道電力は道内の家庭や企業に7月23日から9月7日のうち9時から20時の間の節電を要請しました。医療や福祉施設は対象としておりませんが、当院では節電を自主的に取り組んでおります。空調や照明など節電効果が顕著に表れるものを中心に当院で行っている節電対策をご紹介します。

- ① 事務室の照明を半分程度間引きする。
- ② 使用していないエリア（外来部門、診療部門の診療時間外）は消灯を徹底する。
- ③ 従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。
- ④ 病棟、外来、診療部門（検査、手術室等）、厨房、管理部門毎に適切な温度設定を行う。
- ⑤ 使用していないエリア（外来、診療部門等の診療時間外）は空調を停止する。
- ⑥ 日射を遮るためにブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。
- ⑦ フィルターを定期的に清掃する（2週間に一度程度）。
- ⑧ 電気式オートグレープの詰め込みすぎの防止、定期的な清掃点検を実施する。
- ⑨ 自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長を行う。
- ⑩ 節電について職員全体に周知徹底する。

来院される皆さまにご不便・ご迷惑をおかけしない範囲で節電を行って参りますが、何卒、ご理解とご協力の程よろしくお願い致します。



赤ちゃんに優しい病院運動について (Baby Friendly Hospital Initiative)



小児科臨床顧問

母乳育児支援委員会 委員長 山田 豊

2008年4月当院にも産科医・助産師さんが主導して母乳育児支援委員会が発足し、BFHIを目指す方針が決まりました。そのメ

中・央・病・院・前

まもなく7月を迎えますが、函館では7月6日から「函館野外劇」が上演となります。今年で25周年を迎える「函館野外劇」は国内最大規模の歴史劇として進化を続けています。当院のスタッフも毎年参加させていただいており、町人や看護人などの役を演じております。五稜郭を舞台に函館の歴史をスペクタクルに表現した「函館野外劇」を皆さまもぜひご覧になってみてください。



ンバーは助産師・産科医・看護師・栄養士・薬剤師・小児科医そして事務局の総務課などで構成され、セミナー・研修会にも参加して学習を続けてまいりました。同年6月7日には日本母乳の会研修会委員長の吉永宗義先生をお招きし、当院で職員向けの講演もしていただきました。このBFHIは、母親と赤ちゃんが順調に母乳育児を開始できるような機会を提供し、それによって最初の6ヶ月間は母乳だけで育てられ、その後は適切な補完食を与えられながら、母乳育児を2年かそれ以上継続するよう支援するものです。しかしこの運動は、まだまだ院内外にあまり周知されていないと思いますので、この場を借りて少し説明させていただきます。実はUNICEFとWHOは国を挙げて取り組むことを求めています。今のところ子どもにやさしくない我が国はあまり積極的とは言えません。この運動は簡単に言うと「お母さんたちに、自分が産んだ赤ちゃんを、自分のおっぱいで育ててもらおう援助をする」ということですが、その背景には大きな世界があるのです。全国的にもそして当院でもお母さん方に母親教室などで尋ねると、90%以上のお母さんが「我が子は自分の母乳で育てたい」と答えます。（この答の中には是非ともという方と、できれば母乳でという方がおられます。）しかし日本の1ヶ月検診時の母乳（のみ）の育児率は43%程度と言われています。これは是非自分のおっぱいでと答えた方の%と大体一致します。私が小児科医になる前（40年以上前です）から小児科医は「おっぱいで育てましょう」と言ってきました。そして世界的にはラ・レーチェリーグ（スペイン語で母乳連盟の意）が活発に活動し、日本各地でも、お母さん方の母乳で育てようというお母さんを支援するボランティア団体もできております。しかし母乳育児率は上がってこないのです。これは日本に限らないことであり、その対策として、世界的にはUNICEFとWHOによって1991年～1992年にBFHI（赤ちゃんに優しい病院運動）が始まったのです。第一弾として記述しました。次回は世界の、そして日本の母乳育児推進運動について述べてみたいと思います。

健康寿命と平均寿命



病院長 橋本 友幸

日本は先進国の中で最も平均寿命が長い国です。2012年3月の概算人口では65歳以上のいわゆる高齢者は2916万人。さらに80歳以上はなんと874万人にも達するとされています。01年に世界保健機関（WHO）から191ある全加盟国の健康寿命が発表されましたが、平均寿命との差が意外と大きいので話題になりました。健康寿命とは、日常生活の動作に支障のない期間、つまり平均寿命から、自立生活ができなくなり、介護を受けている期間を差し引いた年数を指します。日本は平均寿命も健康寿命も世界一ですが、介護を要する期間は男性6.3年、女性では7.9年となっています。人生の後半6年～8年近くは必ず誰かの世話や介護を受けなければならないということになります。介護を要したり、寝たきりになったりする原因の第1位は脳血管障害（脳卒中）です。第2位は骨や関節に関するけがや病気で、背骨や太もものつけ根の骨を折ったり、腰椎の神経を囲む脊柱管が狭まり、神経を圧迫する腰部脊柱管狭窄症などです。以前、ご紹介しましたロコモティブシンドローム（運動器症候群）が要介護になる大きな原因です。運動不足は骨や関節といった運動器の機能の衰えに結びつき、生活機能を低下させます。鍛え上げた健康な宇宙飛行士ですら長く無重力状態していると、いくら宇宙船の中で運動しても骨がぼろぼろになったり、筋力が低下したりするため、地上に戻ってきたときには立ち上がれなくて担がれていくニュース画像を記憶されている方も多いと思います。人間は重力の存在する地球上で酸素運動のウォーキングをしたり、筋トレをしたり、ストレッチをしたりして運動できれば、健康寿命が短くなってしまいうすのとれた食事など美しく老いるためには努力が必要です。人生80年時代ですが、平均寿命を長くするとともに健康寿命もさらに長くしてその差を小さくしたいものです。



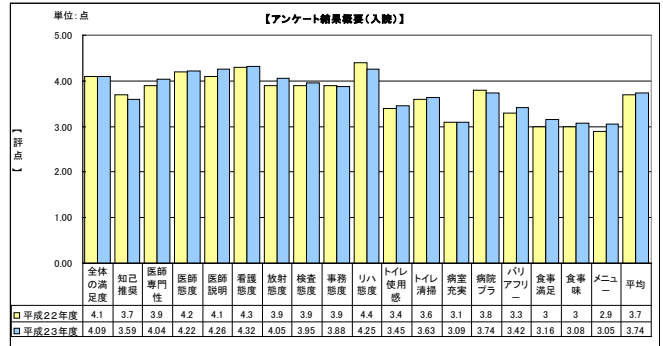
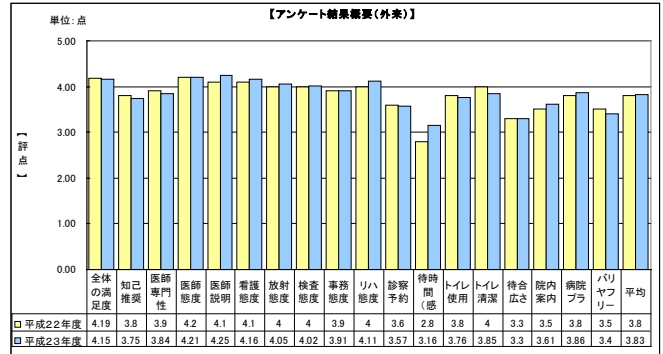
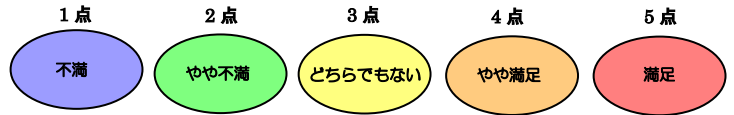
患者さま満足度調査結果

昨年、実施しました「患者さま満足度調査」では多くの患者さまにご協力いただき、誠にありがとうございました。この度、調査結果がまとまりましたので、ご報告させていただきます。全体の結果については、入院調査では平均点は4.09点、外来調査では4.15点と入院・外来ともに前年度よりも低い評価となりました。特に不満が多かった項目としては入院調査では「トイレの設備」や「食事について」、「テレビ・冷蔵庫の料金」となりました。一方、外来調査では「駐車場の待ち時間」や「診察の待ち時間」について昨年度よりも高い評価となりましたが、まだまだ不満の多い結果となりました。今回の調査結果を踏まえ、より良いサービス・診療に活かすよう改善を行って参りたいと思います。

【患者さま満足度調査概要】

- 実施期間 平成23年10月31日～11月4日
- 調査対象 外来患者さま および 入院患者さま
- 調査対象人数 入院：204人 外来：414人
- 有効回答数 入院：144人 外来：363人

■回答方式 満足度についての五段階方式



市民公開講座のお知らせ

平成24年7月6日（金）、北斗市総合文化センター「かなでーる」にて「自閉症・発達障がいの人たちへの地域支援」をテーマとした市民公開講座に当院助産師・看護師長の川淵ゆかりが講師として講演いたします。「思春期教室および発達障がい児への性教育の事例」についてお話する予定です。入場は無料となっておりますので、発達障がいのお子さんへ携わる方々等、関心のある方はお気軽にご参加ください。

日時：平成24年7月6日（金） 10:00～12:30
 場所：北斗市総合文化センター かなでーる 大会議室
 参加料：無料

【患者さまの権利】

1. 安全で良質の医療を平等に受ける権利
2. 自らが受けている医療について、十分な説明を受け、知る権利
3. セカンドオピニオンを求める権利
4. 自らが受ける医療に参加し自己決定する権利
5. 個人のプライバシーが守られる権利
6. 個人として常にその人格、価値観が尊重される権利



『電車どおり』では、皆さまのお役に立ちそうな情報をどんどん掲載していく予定です。記事に対するご要望などがございましたら、広報誌担当事務局までお問い合わせ下さい。 連絡先：TEL 0138-52-1231（内線2262）
 次号発行予定は7月25日です。お楽しみに！！